

(21) 体 育

1 設置科目及び履修要件

- ① スポーツ概論
- ② スポーツⅠ（採点競技及び測定競技）
- ③ スポーツⅡ（球技）
- ④ スポーツⅢ（武道及び諸外国の対人的競技等）
- ⑤ スポーツⅣ（ダンス）
- ⑥ スポーツⅤ（野外の運動）
- ⑦ スポーツⅥ（体づくり運動）
- ⑧ スポーツ総合演習

体育科においては、「スポーツ概論」「スポーツⅤ」「スポーツⅥ」「スポーツ総合演習」を、原則、各学年において全ての生徒が履修。
また、その他の4科目から1科目以上を選択必修。
(従前と同じ)

※数字の○囲みは原則履修科目

2 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することをめざす。

⇒ **ここがポイント!**

- スポーツの多様な関わり方についての理解と実践及び生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身に付けることを重視する。
- 高度な技術の習得を中心として社会におけるスポーツを牽引していくことばかりではなく、「する、みる、支える、知る」などのスポーツへの多様な関わり方を実践することを通して、社会における人々の生涯を通じたスポーツの諸課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて共に関わろうとすることを強調している。

3 各科目の内容

ス ポ ー ツ 概 論	「スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展」「スポーツの効果的な学習の仕方」「豊かなスポーツライフの設計の仕方」「スポーツの多様な指導法と健康・安全」「スポーツの企画と運営」
ス ポ ー ツ Ⅰ	「採点競技への多様な関わり方」「測定競技への多様な関わり方」
ス ポ ー ツ Ⅱ	「ゴール型球技への多様な関わり方」「ネット型球技への多様な関わり方」「ベースボール型球技への多様な関わり方」「ターゲット型球技への多様な関わり方」
ス ポ ー ツ Ⅲ	「武道への多様な関わり方」「諸外国の対人的競技への多様な関わり方」
ス ポ ー ツ Ⅳ	「創造型ダンスへの多様な関わり方」「伝承型ダンスへの多様な関わり方」
ス ポ ー ツ Ⅴ	「自然体験型の野外の運動への多様な関わり方」「競技型の野外の運動への多様な関わり方」
ス ポ ー ツ Ⅵ	「体づくり運動への多様な関わり方」「目的に応じた心身の気付きや交流を深めるための運動の仕方」「ライフステージ及びライフスタイルに応じた体操や運動の計画の立て方」
ス ポ ー ツ 総 合 演 習	「スポーツの多様な理論や実践に関する課題研究」「スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究」「スポーツを通じた多様な社会参画に関する課題研究」

4 各科目の履修に関する配慮事項

- 指導計画の作成における配慮事項
 - ・ 「スポーツ概論」「スポーツⅤ」「スポーツⅥ」及び「スポーツ総合演習」については、原則として、各学年において全ての生徒に履修せさせること。
 - ・ 「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「スポーツⅢ」及び「スポーツⅣ」については、生徒の興味や適性等に応じて1科目以上を選択して履修できるようにすること。

5 指導内容の体系化

校種	小学校		中学校	高等学校
学年	小学校第1学年～第4学年	小学校第5学年～中学校第2学年	中学校第3学年～高等学校第3学年	
体育	様々な基本的な動きを身に付ける時期	多くの領域の運動を体験する時期	少なくとも一つの運動を選び継続することができるようにする時期	
保健	身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容	個人生活における健康・安全に関する内容	個人生活及び社会生活における健康・安全に関する内容	

6 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業の創造

「何ができるようになるか」～体育科において育成をめざす資質・能力～

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方についての理解 ・ 生涯を通じたスポーツの推進及び発展に必要な技能
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの推進及び発展についての自他や社会の課題の発見 ・ 主体的、合理的、計画的な解決に向けた思考力と判断力 ・ 他者に伝える力
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する力 ・ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度 等

「何を学ぶか」～体育科において重視する学習内容・学習活動～

「**体育の見方・考え方を働かせる**」ことを通して、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育む。

学習活動の充実に当たっては、

- ① 言語活動を一層充実させる。
- ② 情報機器などを適切に活用し、学習の効果を高める。
- ③ 運動やスポーツの多様な楽しみ方を実践できるようにする。
- ④ 体験活動を重視する。等の活動を重視する。

「どのように学ぶか」～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

必要な知識及び技能の習得を図りながら、生徒の思考を深めるために発言や意見交換を促したり、気付いていない視点を提示したりすることなどで「深い学び」の実現が期待できる。

【課題発見・解決の学びのプロセス例】

